

第14回さいたま活性化サロン テーマ「地域金融の新しい形」

◇ 平成28年12月5日開催

◇ ゲストスピーカー 小松真実 ミュージックセキュリティーズ(株) 代表取締役

井上義夫 埼玉縣信用金庫 営業企画部 執行役員部長

「地域金融の新しい形」発表概要

1. 投資型クラウドファンディングの仕組み

- ・ 現在、地域の事業者が資金調達方法として主に利用しているのは、銀行等からの「融資」であるが、事業者からは「融資を受けにくい」、「既に与信枠ギリギリまで借りている」といった声が多く聞こえてくる。つまり、成長のためのリスクマネーを調達する手段が地域事業者にはあまりないのが現状。
- ・ 事業主が求める資金は、①元本返済を保証しなくてよい、②事業主の個人補償が不要、③事業の成果に連動した分配を行えばよい、④経営の自主性が保たれる(株式取得目的ではない)、⑤金融機関からの融資を受ける際にBS上の資本とみなせる、といった「資本性の資金」であるが、このような性質の資金は、金融商品取引法に基づく投資型クラウドファンディング(以下「CF」という。)で調達可能。第二種金融商品取引業者であるミュージックセキュリティーズ(以下「MS社」という。)は、個人投資家から出資(投資)を募り、「資本性の資金」として地域事業者に供給することを命題として事業を行っている。
- ・ CFは、出資対象となる事業の事業計画等を開示して出資者を集めるので、事業者は改めて事業計画等を見直したり、長期的な事業計画を策定しなければならないというインセンティブが働くほか、出資を受けた後は、百人・千人単位の出資者(個人投資家)全員がステークホルダーになるため、なんとか計画を成し遂げようという前向きなプレッシャーに繋がる。

2. ミュージックセキュリティーズによる地域金融機関・地方自治体との連携

- ・ MS社は、地域金融機関と有償ビジネスマッチング契約を締結するなどして、資金ニーズのある事業者の紹介を受けている。なお、埼玉県内は埼玉縣信用金庫(以下「さいしん」という。)と連携し案件の発掘を行っている。
- ・ 金融機関から事業者の紹介を受けた後は、MS社による事業計画等のデューデリジェンスを経てファンドを組成し、インターネットを介して販売を行っているが、地域の個人投資家向けに金融機関による販売も行っている。また、CFはインターネット上で全てが完結するが、投資家にとって投資先の顔が見えること(事業主の思いを伝えること)が重要と考えているため、ファンド説明会を開催して事業者に自らの事業についてPRしてもらったり、工場見学、現地訪問ツアー等を企画している。
- ・ 近年、CFを推進する地方自治体が増えている。例えば、兵庫県がふるさとの応援・成長に資するとして選定したビジネスプランに対し、MS社が資金調達のためのファンドを組成。本件は、他県からの投資が約7割を占めるなど地域のPRに成功しており、また、地域経済の活性化にも繋がっている。

3. 埼玉縣信用金庫におけるクラウドファンディングの活用に至る経緯とこれから

- ・ さいしんでは、平成24年度から、顧客である中小企業が抱える課題について調査を開始。その結果、多くの企業が売上高のアップを課題に挙げていることが判明したため、販路拡大・ビジネスマッチングに重点を置いた支援に取り組んでいたところ、CFの仕組みを知り、MS社と業務提携した。
- ・ CFは、中小企業にとって、①新たな資金調達手段となるばかりでなく、②新たなマーケティング手段、③販路拡大・ビジネスマッチング、④新商品のプレミアムマーケティング、既存商品のブランド力向上に資するものとして期待できるほか、さいしん職員の目利き力醸成、更には地域活性化も期待できる。
- ・ 大雪により被害を受け農業施設等の復旧がままならない中、CFを利用した資金調達を行うことで、多くの人から応援してもらうことができた事例や、雇用創出に繋がった事例も出てくるなど、CFは地域経済の活性化への有効なツールとなっている。今後も地方公共団体とも連携しながらCFを積極的に活用して、地域活性化を支援していきたい。